特集に当って

川野　幸三郎

ここ数年来，OR誌では国内それぞれの地域に密着したテーマをとりあげて特集を組んでまいりました．すなわち1986年2月「地域計画策定支援システム」，1987年8月「本四架橋」，同年10月「北海道開発のOR」等々です．

今回は特定の地域に限定するのではなく，全国に展開しつつある「地域開発の大型プロジェクト」の特集を組むことにいたしました．

昭和37年全国総合計画が策定されて以来，昭和62年第四次全国総合計画（四全総）にいたるまで，めまぐるしい時代のうつり変りに従い，計画のねらい目も大きく変化してきました．四全総のねらい目は「東京一極集中」への対策にあるようです．すなわち，われわれの生きている現代は21世紀に向けて国際化，情報化が進み，近い将来，国内はもとより国際的にも人・物・金がはげしく交流する社会になると思われます．このことは人口，諸機能の東京一極集中の弊害を加速することになりかねません．これに対抗するため人と国土のバランスの回復をはかりながら，わが国を構成する各地域が創造性に富む個性的な地域づくりを進めることが期待されているわけです．

さて今回の特集について，北から順番に紹介しましょう．まず北海道，東北両地方を代表して斎藤茂樹氏に「青函トンネルの開通と新生函館の都市づくり」について書いていただきました．本年3月13日青函トンネルの開業と相俟って函館・青森インターブロック交流圏構想をもとに都市づくりが始まろうとしています．ほぼ時を同じくして開通した瀬戸大橋と同様に日本列島連結の巨大プロジェクトの完成により人・物の流れ，地域経済がどのように変ろうとしているのか，今後の函館の都市づくりの展開が期待されます．また昭和64年春季研究発表会では特別テーマ「海を渡るOR」で，本四架橋開通後の解析がとり扱われる予定です．こちらの方もご期待ください．

佐野紳也氏には「東京湾岸地区の情報計画」について書いていただきました．東京湾岸地区では「東京」問題に対応して新たな都市機能の開発と，都市構造の再編をめざして数多くのプロジェクトが進められています．これらの各種プロジェクトを1つの情報通信ネットワークに結びつけようとする今回の計画は国際化，情報化に対応する地域開発のインフラストラクチャー整備のあり方を示すものとして興味深く思われます．

浅沼知行氏による「湘南国際村計画」では国内における東京問題と並んで，大きな国民的課題となっている世界における「経済大国日本の国際化」に視座をおいて，21世紀の国際交流拠点づくりについて述べられています．早くから「世界に開かれた国際文化県」を創造することを基本目標としている神奈川県の意気込みがうかがわれます．

山本勝先生による「あいち健康の森」構想は長寿社会をむかえつつあるわが国の国家的課題にチャレンジするプロジェクトです．高齢者自身も積極的に参画する明るく活力のある長寿社会のための「地域総合システム」づくりが注目されます．

関西では関西国際空港，明石海峡大橋等々大型プロジェクトが進められていますが，今回は寺本光雄氏に「関西文化学術研究都市」の執筆をお願いしました．この構想がわが国の学術研究振興のあり方及び近畿圏の新しいビジョンを検討する学者の自主組織の中から生れてきたことは興味深く思われます．学術研究機能と市民生活，地域産業の有機的結合がどうはかれるか今後の展開が注目されます．

最後の論文では視点を国内から国外に転じ，平木俊一氏が「国際マクロ・エンジニアリング・プロジェクト」について論じられております．人類が環境との調和をはかりつつ地域間または国際間で共同開発するプロジェクトについて述べられるとともに，その計画，実行，評価の段階におけるOR手法の果す役割についても触れられています．国内のプロジェクトはもとより，国際的な分野でもORマンの積極的な参加を期待したいものです．

かわの　こうざぶろう　東燃石油化学㈱
〒104 中央区築地4－1－1

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．